

自 己 評 価 表

愛媛県立松山工業高等学校（全日制課程）

学校番号

2 4

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献する豊かな人間性と創造性を備えた実践的な技術者を養成する。	重点目標	1 基本的生活習慣の確立と自律心の育成 2 分かる授業の展開と基礎・基本の定着 3 探求心の涵養と創造力・実践力の育成 4 資格取得の実践とキャリア教育の充実 5 部活動の充実と個性豊かな人間性確立 6 地域との連携とボランティア活動推進
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	ICTを活用した授業を、全教員の90%以上が実施できることを目指す。 A : 90%以上 B : 75～89% C : 60～74% D : 50～59% E : 49%以下	A	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、臨時休校が実施されたが、本校は一人一台タブレットを生かし、全教職員の協力のもと遠隔授業を実施した。生徒や保護者、県内外の学校関係者からもこの取組に対して高い評価をいただくことができた。	今後の不安定な社会情勢を考え、生徒の学びを保証するために、常に臨時休校が実施された場合の対応を考えながら授業計画を行う。 来年度からWindowsPCが導入される。教務課、ICT課、図書研修課等の連携を通して、ICTを活用した授業改善を行いたい。
		「分かる授業」と「考える授業」を展開していくために、生徒用授業アンケートの回答欄「説明が分かりやすい」と「生徒の反応を大切ににする」の回答率90%以上を目指す。 A : 90%以上 B : 75～89% C : 60～74% D : 50～59% E : 49%以下	A	「説明が分かりやすい」が92.9%と「生徒の反応を大切ににする」が95.1%と目標を達成できた。	「興味・関心を引き出す」の項目が90%を下回っているため、90%以上を目標に生徒の関心や興味のわく教材研究を行っていききたい。
	資格取得の充実	各種資格・検定試験の合格者総数5500人以上を目指す。 A : 5500人以上 B : 5000～5499人 C : 4500～4999人 D : 4000～4499人 E : 3999人以下	B	現在（R3年3月9付）の合格者総数が、5180人であり例年とほぼ同じであり、全国と比較すると高くなっている。	資格は生徒本人の資質、興味、進むべき進路に照準を定めものであることはもちろんのこと、生徒に自らの達成状況を把握させ、さらなる資格取得に向け努力させる。 2年生の資格取得状況が、取得総数やジュニアマイスター顕彰取得に大きく関わってくるため、早い段階での資格取得を奨励する。
生徒指導	基本的生活指導の充実	自ら進んで正しい挨拶のできる生徒を育成していく。それに関する生徒自己評価の質問事項の回答率100%を目指す。 A : 100% B : 90～99% C : 80～89% D : 70～79% E : 69%以下	B	1学期は主に1年生の一部に正しい挨拶ができていなかったが、2学期末にはほとんどの生徒が正しい挨拶ができるようになった。	挨拶は基本的生活習慣の重要なスキルであることを生徒たちが理解し、自ら進んで挨拶ができるようにしていきたい。また、生徒が主体的な高校生活を送れるように、生徒会活動と連携した取組も行う。
	交通安全指導の充実	登下校指導や交通安全教育の充実により、交通事故発生数0件を目指す。 A : 0件 B : 1～19件 C : 20～39件 D : 40～49件 E : 50件以上	C	交通事故発生数は24件（R3年3/9付）と昨年度とほぼ同じである。	生徒が主体的に交通安全に留意した日常生活を行えるように、生徒会活動と連携した取組を行う。また、近隣校（松山南高校・聖カタリナ高校）と合同で行う市駅南地区マナーアップクラブ交通サミットの活動を充実させていく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職率100%を目指す。 A : 100% B : 95~99% C : 90~94% D : 85~89% E : 84%以下	A	求人数の減少により、1次合格率は93.5%で昨年より5%下がったが、年内に就職希望者は全員内定した。	今年度求人数は約1370人で、昨年比10%の減少であった。次年度は更に減少し、競争倍率が増加することが予想される。面接でのコミュニケーション能力を高めることはもちろん、筆記試験対策を強化する。
	進学指導の充実	生徒が自主的に学習できる環境を整えることにより、国公立大学合格者20名以上を目指す。 A : 20人以上 B : 15~19人 C : 10~14人 D : 5~9人 E : 4人以下	C	国公立大学合格者は現在10名で昨年より3名多くなっている。また、一般入試（前期・後期）に挑戦している生徒もあり、結果待ちである。	本年度の結果を踏まえた受験大学へのヒヤリングを詳細に行い、来年度への対策に活かしていく。
特別活動	特別活動の充実	全国大会上位入賞10部門以上を目指す。 A : 10部門以上 B : 8~9部門 C : 6~7部門 D : 3~5部門 E : 2部門以下	E	今年度は新型コロナウイルス感染症のためインターハイ中止（各競技では代替大会を開催）、選抜大会でも全国大会に出場する運動部が大変少なく、文化・生産部でも十分な成果を上げることができなかった。 その中でも自転車競技部の梅澤さんは、JOCジュニアオリンピックカップで男子U17ポイントレース1位、個人パーシュート2位に入賞、美術部の藤平さんは第44回全国高等学校総合文化祭で文化連盟賞を受賞し、大健闘であった。	昨年度同様、環境整備、栄養管理指導研修の機会をより多く設けるよう計画している。また、生産部については下級生を同行させ、大会の雰囲気、作業手順の研修、技術の習得を学ばせて、次年度以降の入賞に結びつける対策をとり、結果につなげたい。
工業指導	社会貢献の充実	「松工ものづくり社会貢献プロジェクト」として、ものづくりを通じた社会貢献を各学科一つ以上行う。	B	全8学科とも「課題研究」を通して、一つ以上の社会貢献を目指した活動を実施している。また、地域との連携を図ることで、生徒達の社会貢献に対する意識が高まっている。	生徒の主体性を育むために、次年度も継続して取り組み、内容を充実させた研究発表会を実施させる。また、ホームページ等を活用して情報発信を行う。
人権・同和教育	人権教育の充実	松工人権宣言の100%の周知を目指します。 A : 100% B : 90~99% C : 70~89% D : 50~69% E : 49%以下	A	各ホームルーム教室に「松工人権宣言」を掲示し、人権・同和教育ホームルーム活動やショートホームルームなどを通じて、周知の徹底を図った。12月にアンケートを実施したところ、ほぼ全員の生徒に周知できていた。「知らない」と回答した生徒には、後日、学習会を開いて周知を図ったので、目標を達成できた。	来年度も引き続いて100%の周知を目指していき、生徒が楽しく有意義な学校生活を送れるように人権教育の充実を図っていきたい。
環境整備	奉仕活動の充実	各クラス・部・科で、年1回以上の奉仕活動を行う。	B	2学期末現在で、各8割のクラス、7割の部活動が奉仕活動を実施した。 コロナ渦の影響もあり、大勢で作業をするということが難しいように思われる。	コロナ感染拡大状況により、学校行事の縮小が予想され、全ての科、全ての部が奉仕活動を行うのは難しい。タイミングを見計らいながらであるが、クラス単位・各部単位等での年1回の奉仕活動を実施していきたい。
業務改善	職場環境の整備	教職員のメンタルヘルス対策として、定期的に健康相談等の面談を行い、教職員の健康障害0名を目指す。	A	教職員のメンタルヘルス対策として、定期的に健康相談等の面談を行い、教職員の健康障害0名であった。 また、超過勤務時間が1カ月80時間以上の教職員には、希望で面談を行い、健康状態の把握に努めた。	教職員の健康相談における面談や健康観察は、継続的に行っていききたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。